

## 育苗箱



作物栽培用の苗を育てる際に使用する箱。

水稲用のものは、幅30cm 長さ60cm 高さ3cmで作られている。  
農業用機械もこの規格に合うよう設計されている。

育苗箱は一般的には水稲に使われますが、野菜にも使えます。128穴や200穴のセルトレイが1枚ぴったりおさまります。

深さが約3cmしかないため、短期間の育苗向きです。育苗箱に種まき専用培土を入れ、キュウリやカボチャ、トマトなどの種を播いて、発芽～本葉2枚程度まで育苗します。なお、野菜の育苗には、底穴がたくさんあり、凹凸がないタイプを使うと良いです。

中成苗用の育苗箱は穴の数が多く、野菜苗の育苗に適しています。底面保水タイプは野菜には向きませんが、穴は多いので、ひっくり返して使えば、水も溜らず問題ありません。また、稚苗用は穴が少なくあまり活用できません。

また、冬場、電熱マットで育苗する際に活用する手も。マット面に水が溜まるので、育苗箱をひっくり返してトレイとマットの間に置けば、通気性が確保できます。

育苗用の容器として、「育苗箱」「ポリポット」「セルトレイ」などがあります。

育苗箱は、プラスチック製の浅い箱で、水稲苗が中心ですが野菜苗の生産にも使用されています。ポリポットは、ポリエチレン製の植木鉢状の容器で、果菜類を中心に使用されます。セルトレイは、プラスチック製や発泡スチロール製などで、1トレイあたり100～300程度の穴があり大量の苗を作ることができます。このほか、セルトレイより大きめの穴が連結された連結ポットもあります。

0. 共通

大項目【農業と環境】 中項目【農業生産と栽培の基礎】 小項目【4. 育苗用資材：鉢・ポット】

## 化粧鉢



素焼きの鉢に、釉薬（うわぐすり）をかけて焼成した鉢のこと。

鉢の表面がコーティングされるため、素焼き鉢の通気性や鉢の表面からの水分の蒸散は失われるが、美しい装飾がされて観賞用に適したものとなる。

盆栽やラン栽培などに、また鉢カバーとしてもよく利用されている。

## 0. 共通

大項目【農業と環境】 中項目【農業生産と栽培の基礎】 小項目【4. 育苗用資材：鉢・ポット】

### 素焼き鉢



素焼き鉢とは、釉薬をかけず 700～800 度の高温で焼いた粘土を原料とした植木鉢です。高温で焼かれていることで、表面には目に見えない小さな穴がたくさん開いています。これにより、高い通気性、吸水性、排水性が得られ、多くの植物にとって相性のよい植木鉢となっています。ちなみに「テラコッタ鉢」とは、素焼き鉢の中でもイタリア産の赤い色合いのものを指します。

#### メリット

素焼き鉢のメリットは、通気性、吸水性、排水性に優れているということ。そのため、土が早く乾燥して、根腐れがしにくくなっています。また、鉢の壁面からも水分が蒸発するので、気化熱が奪われて土の温度の上昇を抑えることができます。

#### デメリット

素焼き鉢はプラスチックの鉢に比べると重く、強度が弱いことがデメリットとなっています。また、通気性、吸水性、排水性に優れているということは、水が蒸発しやすいということです。そのため、土が乾きやすく、湿り気を好む植物にとっては水分が足りなくなってしまう可能性があります。

0. 共通

大項目【農業と環境】 中項目【農業生産と栽培の基礎】 小項目【4. 育苗用資材：鉢・ポット】

セルトレイ（プラグトレイ）



「セルトレイ」を使えば、省スペースで大量の苗が生産可能。機械や専用器具による定植も行えるため生産性が高いです。72～300穴程度の種類があり、キャベツやブロッコリー、ハクサイなどの葉茎菜には128穴、レタスには200穴などを使います。セルトレイは黒が一般的に使用されますが、夏場の高温による苗徒長を抑えるため、白が使われるケースもあります。

0. 共通

大項目【農業と環境】 中項目【農業生産と栽培の基礎】 小項目【4. 育苗用資材：鉢・ポット】

プラスチック鉢（プラ鉢）



プラスチック鉢は形の多様さ，色の豊富さ，軽量などの点から主流になっている。素焼き鉢は壁面から水が蒸発するがプラ鉢はそれがない。蒸発がない方が土が乾きにくく，乾燥害の回避効果が大きく生育の揃いが良くなる，かん水労力が軽減できる，などの利点がある。その反面プラ鉢は過湿になりやすいので注意が必要である。

プラ鉢には，黒，白，透明などのものがあり，色によって熱の透過性が異なる。黒色は透過が良く鉢温の上昇に効果があるので低温時に，白色の鉢は夏季の高温時に使われることが多い。

0. 共通

大項目【農業と環境】 中項目【農業生産と栽培の基礎】 小項目【4. 育苗用資材：鉢・ポット】

ポリエチレンポット（ポリポット）



ポリポットは果菜類の育苗に向いています。キュウリには9cm、トマトやピーマンには12cm、ナスには15cmサイズがよく使われます。低温期は育苗日数が多くなるので、大きめのサイズを使用することで、根が内側に巻き付き老化することを防ぐことができます。また、カボチャやキュウリ、トマトなどを育苗箱で初期育苗した後、「ポット苗専用培土」を詰めたポリポットに鉢上げし育苗すると、根の張りが良くなります。

## 0. 共通

大項目【農業と環境】 中項目【農業生産と栽培の基礎】 小項目【4. 育苗用資材：鉢・ポット】

### ペーパーポット



ペーパーポット（紙筒）は、日本甜菜製糖（株）が開発した特殊加工された紙製の作物移植用集合鉢です。

鉢には底が付いていませんが、根が張りますので土抜けしません。

#### ペーパーポットの種類

##### ペーパーポット

紙鉢は相互に水溶性の糊で接着されており、移植時に一本一本の苗に分離します。

紙鉢は移植後、土中で分解しますのでそのまま植え付けできます。

##### チェーンポット

紙鉢が数珠つなぎ（チェーン）状に連結した構造で CP チェーンポットと BP チェーンポットの 2 種類があります。

CP チェーンポットはそのままチェーン状に引きだし、移植できます。

BP チェーンポットは専用移植機で紙を巻き取りながら、裸苗ブロックを株間自在に移植できます。

0. 共通

大項目【農業と環境】 中項目【農業生産と栽培の基礎】 小項目【4. 育苗用資材：鉢・ポット】

**連結ポット**



「連結ポット」とはそれぞれのポットが連結されており、16～49 個程度の穴が開いた正方形の容器のこと。セルトレイよりも大量の培土が必要になりますが、活着が良いがっちりした苗を作ることができるほか、定植までの日数に余裕ができるメリットあり。25 穴でブロッコリーやキャベツを育苗すると、根鉢がしっかり形成された立派な苗に育ちます。